



唐崎夜雨

清澗

飯本第也
七社の田十客
人のまゝとP沖
奥の内に幸
流して供の心
とてまゝつて
又舟にてこま
るゆへ

五三三ツク
陶子とのりえ
子あつく新

客人のまゝもこほらる夜は夏
麦をのろるまは小曲をく
空起り机之ついで入るめく
竿たらしら猿の夕月松巴
鐘くらし声万聲のこ織結
関所へ二所もまらぶに足次
外記内記筆と鴨形を並ぶも
つかね重く耳をへて引
白土を待てる廬山へゆくおは
月下



踏まは四ハ返
の田をく復分の
入まてりうと云

まむ暇とる所
りりり

枇杷葉飲之今よけさ起 為瑤
いつきふも思ふ事し此舟下し 菊阿
十年がらう城へ囚人 漁舟
ひつら田の踏ふ此田のむつり捨 倫里
鹿く述——く胡チわう不焦 立志
新月の男らましく四下張する 翠蓋
いたく痛く息も山うけ 沾岩
火にお見乃近いころあまきやがは 沾石
まぐらう屋まうく傘下詠乃書 賦泉
けと氣をいさうく誓言—— 沾葉血 龍泉

熱中場 江戸
はかりてさうく
なうりうく
有る所こまき
山も物りせいの
りうりりりり
切らうと有

かきあつきの
系をれんう
きく遊さく

中子ゆりりそれの女房 千山
らうらら始越中詠こ詠らり 朝叟
重石のうらうけ分こりり 風紫
瘦く人三川取より寒若鳥 若峨
嘶くまよふ全盛とさく 沾宇
おこりれあ乃よて園か—— 柯木
なまきとがくふく—— 沾枝
撞撞から海見の白乃うら見雲 沾露
昔船乃うらり醫者流すあき 沾化
いふ外れ砂糖と勉—— 只足

乃建古八甲

列信列々々々

りりりりりり

毛乃乃乃乃乃

大洋流むよやかてもあて板
翅箸らするこまぬ娘月白
帆へ便水も川もす能村

立志

倫至

法修

若峨

松巴

安さ身ハ漆共余り苦ふ成之

山夕

草履のりらえのりも来々

二味くくくく

貞佐

鄰ハあららら

朝叟

名 近世すいとも大おもゆるん

雨檣

くくくくく

仙宇

乃の乃の乃

よふもゆきく神つる日さる

沾岩

呉飯屋ち御ちたまの

只尺

流れきく樹ハ指志も力

古井

岩東御守望の球を返すまや

角阿

仕立くきけら上下を麻

賦泉

衣くれ初ら四睡れゆふふ

飛泉

ちきんくかをかきふよ又百騎

沾化

いよもも附子れ乃の海以聲

柯木

羽筆踏ひ乃奥歯かむら

風系

おほくのりときん狩野子

沾石

乃千寒の
拾得虎よて
四睡く

茶力つらき如
あつらひり
あつらひり

かのづーし
あつらひり

西所極現
 二ツム
 四ツム
 五ツム
 六ツム
 七ツム
 八ツム
 九ツム
 十ツム

白粉花 移

十番よるりち笑摺く糊
 泥飛れ縁側通し月わさ
 秋も引ッけくま燕如唇
 白粉の花ハ瓜取すいりり
 面伏ら後ち綿のハいれや
 古鉄貫れちりし聖像
 古池乃菊城とふら抜をちる
 管あ~~~~しめ系小酒市ち灸
 任官は菓子色以白舞とし
 以北をさきく家よのさつき
 青瑤
 沾露
 沾枝
 沾岩
 角阿
 漁舟
 菅峨
 千山
 紫臺
 湖舟
 沾石

望田落馬

沾德

早きと實と
 言い晚ま以客
 と乞田面子持
 るるけらる
 馬實也

大おち隅し
的ノ口し

源氏うはれく
 のまきよのれ
 市子ん

實ハ去水~~~~田稻む~~~~ろ
 疎を井~~~~木犀枝んそ
 関札ノ唐流印さハ月と白天
 雲もおさぬりたらちかたふ系
 しろ整美と~~~~へ~~~~大隅系
 やらびのり~~~~れち何処々
 風おろ~~~~痒~~~~ん蒸ハ草も~摺
 けり~~~~ちなき~~~~も古ま
 二三年人形つかよ~~~~る魂
 海宇
 佳風
 雨磧
 歩菴
 沾露
 鶴洲
 沾竹
 齋谷

下六
三書三集

北溟 莊子道
遥游

形空石と云ふ
七隻又七人の老
人し隠逸傳

涼——
根着川を釜の焼きく改不
北溟さ——
笠うけ此誰の言か——
空霧振に見夢之七隻
山際此看板中——
口上をらせ——
四詩旅麻此骨を削ゆく
清華こいへり鏡もおろさく
月よ雪後家合せなる蓋袋

李溪

芳津

夜霜

賦泉

沾了

芦中

沾岳

我常

如沾

知つらうき
つらうき
ころを

さうき
さうき
のさうき

撞木のさける物お能く角
小すすまよとらめて家より車
曲水らうき地は鏡うけ合ふ
多きく慮といふも日影の
と——へくうへる子の田代
戒名とち鎌倉のちくさこり
板を何回そするや漏ら
棉木の用心とらうきよ
候、換越とゆふ仲立
物——きん言預けら此垣に

鏡梁

隣笛

琴風

安士

沾洲

可漆

沾石

秋色

左右

沾雪

浄海傍より
下代りきり
るりきり
雪かきんよを
つらきよき
なりゆき
つらきよ
まのゆき

饅頭も大般
若も朝の
ゆき

かろおれきりつさるん 徳宇
あう一人よあきり系清ち 沾露
越へき山平張買分よやく 沾徳
いしくまい髪を切きこいゆき日 李漢
七日のかり一様産れひま 歩雀
白見え八月れ氷乃ひく起毛の 海宇
下代の外ちのそみゆきりぬ 露谷
二 饅頭こさるきり越されけり 沾竹
馬別當へうきりい文言 鶴洲
各いよれ厭ひきりく夏まゆく 夜露

他郷へま
るりきり

奥方へりか
ゆきりきり
わきりきり

原谷あり
海子よき
ゆきりきり
かきりきり

あきり王ごや清の系れ日 安士
色いり陽をよ同れきりきり 左右
梯の背中れ丸い丁を風 芳津
我きり城よ一筋とんか道 琴丸
学寮をかふきり下帯 如沾
麩よりす縁よりけり 芦中
け極海ふねらりきり 沾岳
海に在る神れりけり 我常
今鼻鏡よりきり 佳風
落しけり月よりきり 賦山
観かき

山如麻川如帶

大坂うしろの
寺ハつやさう
松ノ子ハゆい

はらくあたる赤火れゆる家 釵梁
かろ味喰ちり影ハハハハハハ 沾洲
生り菓とのとむくハハハハ 紋帯
段立の色を一葉も動さハ 音津
接荷も接す風を引さハ 津宇
大坂うしろの 五津此二葉ハハハハハハ 安士
ハハハハハハハハハハハハ 夜霧
今日ハハハハハハハハハハハハ 沾石
ハハハハハハハハハハハハ 芦中
ハハハハハハハハハハハハ 如沾

山如麻川如帶
誓約のまじ

あまのこはあまの
あまのこはあまの
あまのこはあまの
あまのこはあまの
あまのこはあまの

妻に嫁人ハ七川より嘆 沾竹
面白き此より合入川の帯 沾岳
首乃流よこよこよこハハハハ 可添
さふやハハハハハハハハハハ 秋色
我ハハハハハハハハハハハハ 沾薄
月見ハハハハハハハハハハハハ 沾雪
後次我ハハハハハハハハハハハハ 左右
葛西から取つてハハハハハハハハ 隣笛
桃子ハハハハハハハハハハハハ 苦津
とりあハハハハハハハハハハハハ 沾漣

山如麻川如帶

通名とつら
 通名職の全を
 沈人の身世
 ともゆ
 孝人のこと
 けりりあま
 らせりあま
 りりあま
 らせりあま

十七八々筆 紙くや心 賦山
 山伏の二人おハ音考や 沾了
 芝舟如こあり是は兆は早魃 五磧
 通名ら耳よ立ぬ世有難キ 佳風
 尼の崎ニや尔先息とあせ 露谷
 星ら北よ吸膏藻如吸虫のく 夜英
 ともく 障と福せらさぬる 釵梁
 すも巻迄年経昔老忠寄 沾洲
 炭紅外一跡或見とく流 歩雀
 翽屋を冠ふ一りこれの神 沾十
 これあ一り 陰ら若浪 沾岳

小漢ハ若別
 比良の海
 七人の屏風と
 細物とらふ
 奉宮の琴曲
 よりのあま

みりー
 びん
 りん

比良暮雪 沾德
 七人をとれら小漢若若
 たりゆとふふ十の細り 沾洲
 荒雪ハ廻れへと統とえふゆ 白雪
 おくあるももら柄袋入系 倫里
 賣買ふせぬハ茅一月如形 釵梁
 經字檢よをと踏立 百里
 窓一川回やせん吹時々 皆可
 もらひあ一り先覚付 回峯
 十五ころ月小星の入れ家へ 東岳

三輔黃圖
歳貢為郵
傳者郵傳
のよるはひのこ

ほらさよふくく薬代の帝 椿子
星合を当心れく難水引 倫里
月よりんせぬ紅を挑灯 皆可
新そふは是郵傳如也 仙里
浄尔我常管札志も 佳風
古情をくりぬく 沾洲
家徳利をくんと 半鱗
くら宿をくらくく 立圃
鷹よさひも来に鹿と取 東水
鳥羽を倦ては食もさへ 仙鶴

女のゆふゆん
中河くくさしニ

らるる道
の

神の名中臣

雄ろくぬひれを吹き来り石 琴風
兼咲く盗人乃鼻如言小成 义魚
気吹戸全れくすも放ちく 紙空
似我解と追かけくある種材水 蓋月
同心所よくて 越 素丸
鬼百合如ならかりに 和風
硯よ人哉呼むく摺はは 白雪
洞道も来物道よ 百里
百村新も片眼さひき 沾徳
月如鴈つらとを分れく引 回峯

ひるまると
のりりんか
のりりんか
のりりんか

つゆのつゆと
のつゆと
のつゆと

つゆのつゆと 秋よかた
 歎ふもわらふも 松巴
 筆一人のつゆと 湖十
 蒲葺舟板も 喬谷
 之所 杖指す日 釵梁
 二階て 名を 柳着
 吉羽 墓へ 密面
 月 女 苦 山
 新造 仲人の 志
 新き 逃 半鱗

つゆのつゆと
のつゆと
のつゆと

つゆのつゆと
のつゆと
のつゆと

つづと 和風
 切き 佳風
 灯欠 仙霧
 紅くも 沾徳
 月柳 仙里
 三 望可
 合羽 百里
 枯た 白雲
 断れ 回峯
 海風 青莪

つゆのつゆと
のつゆと
のつゆと

まろくそとよ
しものそとよ
まろく

まろくあま
あま

陳三官の銘
やま 江戸三田

染人の子いりりしとさく	沾洲
お告くまね元結のすぶささ	椿子
二ハのひろまねよのちねお	倫里
馬控くくお紫とくくや	湖干
菊如借養よ君がーしけえ	松巴
漢字へ選りよりり面如皮	素光
伊と漆とくくく病中	柳翁
崩牙糖よ片くも銀華如前	壽月
栗の苦哉ふふ合極賞の苗	沾山
名 さほらきね誰の陽氣ふ之稻荷様	沾化

昔れ急れ河
つさかこれと
糸つさかこれと
信長ち草
よりれ草入
らちこれと
草のし草つさ
ゆーさかこれと
右後地より
くーす

楊列樂
まろく

二反吹立く火伸並と成と	又魚
雨本紫岐阜れ海引ー京詞	東水
内とハ草よーてや舟引	各谷
絵とけく空哉ふもえ苦き	紙空
灰まきぢい揚州まの中鶴	密雨
辛うーくいよ一山れ山	叙梁
乳つねれとやき夏の夜れ有	立圃
おめくくと仕合よ形よ上げる	琴風
ひよとて関帳差くすむ	皆可
夕陰よ響れ眠り始りて	回峯

大雑書を
のりん

屈原漢文辭之
りてま
ありのりん

冬ふく別々木仙の牧 湖十
 男土四り行物へき油此一 沽洲
 ちやんとさせしハ親を心り 素死
 晴天又結ってりやとの輕結望 偏星
 屈原漢文辭之 同大夫の擧こり合 叙梁
 此掛とふらひれ常此女心 柳芽
 此又つくるる一 何よりや
 何のふれ内外の森せ配り 立團
 大工もてりやと里魚湯乃あり ち哉
 此領ハ等くゆくをれ一を 百里
 一くくうけは生山吹 半鱗

唐士明別より
 ち富士のち
 とくはるはら
 とくはるはら
 あり

不二

冠里

伊予のちこし ちを飛や四州斗一 駿河あり
 ことも 跡ありとるれ及らさ 沾徳
 垣ハ門設れ朽くゆけ一之 宜雨
 ちみららるるし 火取あり水 我兄
 築老くさきりよは ちき石も者 雪凍
 人小れぬくハ茅一 起 緞 仙霧
 月如ほお小よ夫きぬ柄下結 琴風
 上くくもよき 横くくも 萩 暮哉
 お齒是乃親く遠坂すり遠 祇堂

身ゆきまき人
 の物と云

下十七
金巻集

酸の甘いも揖はる小之 雨橋

神の勢よ 神はたつとん之塩鯨 礼繁

かきくろく 興り少川よくね定不 百里

公御非王命而 与らふとく越れ埜辺 白雲

不越境ヲ伝 ぬるの世ぬくちみ孫ふ病 义魚

錦木は絵の具ハ枕摺ふそや 和推

新の跡よ縁 筈かー袖を下く主は面ら 登谷

かきーあこれ 赤うけく根来乃まら新枕 風葉

神よりちを 是より四十能初付中 序令

如く 濱焼の骨をおとむー里持 蓮之

公平本よ糸巾ノ思の苦も阿の 海宇

花運き氷家は布ふとく月此 沾洲

よまをとけく 蘇味噌よあ 沾岳

年とつてく抱きつりき 如士

足袋れ下よあまうき名子色 只尺

葱さうくさか鼻ふり細殿や 文東

菜根石埒ふてもあんざん 壺月

葛西より白髻の森るまら 柯木

火の早いふく野さくくるる 沾山

鬼灯を同行去人吹かそ 東水

あまのねよとく

白髻森 江戸
あまのねよとく

子梅ももきまッ裸や 萬族

細雪も頭中かれば何程も少 巒雨

きく心ひより大王も月 雪冻

奉幣はるる照叶蹴揚を振ふ白幣 我兄

まうーきあ 後信——くや夕白如親 祇空

少北よと云 切き立と切きふ文七数なり 仙瘡

信へ磔と適くはし 風紫

三 洲乞の流き灌頂より一絲と 百里

め意物の歌 石より水肩のぬきを頬杖 和推

矢見こ来て齒牙きを明かりなり 只足

海乃つまに 柳尔よ飲も切らぬ以茶壺 白雪
白く 黒く 凡舎にありて雲よ外 沾徳
空へ投ぐる灰をきり 金 蓮之
けきりより月がしきく指柱 沾岳

住所とて 辨由もこせ巫子と見ふり 沾例
いぢくをい つまこきて汝乃上く町修書 魯谷
白く 漢文 合益さけく月宮へ入る 乱絮
編倍季氏 秋いさくかろくはと海を編の垢 海宇

鳴人をやうく 流人の種く白く紅く綿 安士
りのきりうり 危つらと女をよききむれを 高我

枕輿^ニ遊^ル小沙^ノ影^ヲ 借^リ此^ノ筆^ヲ 文東
 摺^ル小^ノ木^ヲを^シと^シて^シ見^ル心^ヲこ^シう^クよ^ク 壺月
 ち^ノん^ノや^リと^シて^シ清^キき^ヲん^ノは^レた^カ不^レ 東^ノ水
 ち^ノり^ノく^ノを^シ 東^ノの^ノこ^ノめ^ヲと^シて^シ雁^ニ射^ル 一^ノ引^ク 萬^ノ旅
 鐘^ヲと^シて^シ山^ノへ^シと^シつ^チち^ノは^レく 柯^ノ木
 木^ノ像^ヲり^テ薰^カた^カら^シめ^ルを^シて^シ 序^ノ令
 志^ヲ持^テお^シて^シへ^んと^シて^シ母^ヲ持^テへ^ん也^ニ 巒^ノ雨
 近^年と^シて^シ破^子よ^シと^シて^シめ^レぬ^レ從^事あり 又^ノ海
 は^レ免^カる^レ帝^ノと^シて^シわ^カら^ズ深^ク 琴^ノ風
 雲^ノ之^ノ瘦^クと^シて^シ清^キき^ヲん^ノは^レた^カ不^レ 雨^ノ橋

舟^ノ中^ノく^ノを^シ毎^日
 こ^ノそ^ノそ^ノそ^ノ
 う^ノち^ノく^ノく^ノ
 こ^ノの^ノよ^ノふ

利^足よ^ク、ま^るる^君あ^らふ^子世^ノ富^也 沾^ノ山
 此^ノあ^らふ^兔の^毛て^はつ^と月^もれ^し 仙^ノ窟
 四^ノ角^をお^しる^十圍^子見^世 喬^ノ谷
 物^も不^レ煨^スす^丸あ^らふ^也之^輪組 雪^ノ凍
 白^ノ鶴^のの^こひ^心あ^らふ^也よ^クよ^ク 沾^ノ岳
 海^さく^とと^今日^は流^法猪^よ交^也 白^ノ雲
 休^とも^くし^竹并^ふ畜^分血^も了^也 和^ノ推
 外^郎此^本家^族の^まは^らは^ら 風^ノ紫
 纏^ぬん^めり^と何^骨が^茎 海^ノ宇
 こ^まさ^らふ^小千^位大^木の^わり^から^ぬ 蓮^ノ之

う^ノつ^のや^とと^切
 こ^ノの^よふ
 み^つこ^くと
 ち^のち^のち^のち

あ^らふ^のあ^らふ
 こ^ノの^よふ

あまふともふゆふ お髪 沾徳

あまふともふゆふ 一文字と云 灯籠 沾洲

別々星ら二番見乃中 一 义魚

此月と平目れ表是始うら 百里

市と東原本肩へ是ふ草 乱絮

中庸の中よりかゝる也 安士

水干見入る隣りうらやき 壺月

いづれと大徳院流のともれの陰 萬縁

食食ふ旅子此こいつりせり 壺谷

仙人の地系引山むせりこく 沾山

又と云らん

市と東原本

江と云らん

中庸の中

水干見入る

名

奉納の道りと
ゆとのそと

太刀波油よこのとさひよりる 青莪

傘持ら振立ちら進る句も出に 戀雨

金合間屋もらわると断つ 序令

時をえくあぶ付よるも太平記 柯木

鏡をゆるり嘉祥饅頭 祇空

清原の隅よ地勢も涼らり 琴風

思ひのくまら持ち及れり 沾岳

ものかいらやう子よ孫寅よ起 文東

花気もやすく日高川越と 赤水

若れ月め紅ひはけこまらる 西橋

日高川 紀列

仕官のものと云
とたやうは天
守りものより
うけらる

撫花微笑
初れり
とらるる

けらら冬鼓よ葉よきり来る
仙霧
乱絮
阿難ていあー名止しき
白雲

ひくくそ
勢不そ

水仙のみすのひてもいり衣
又魚
雪凍
申わさるるく焼くさり不
序令

あまとき
とらるる

この橋が病づりり新れ雲
沾洲
主従は金へもい新精引
青菽
晴る今日草履くくく米五俵
翠風

あまとき
とらるる

海老尾てもまへともか
琴風
花の時羣集乃時々袖の天露貫
沾山
陰も空固りー松こあ梅

後作茶子句負外一

松寫

沾城

鳴の音と
千鳥の程
乳多くと
云とらる
とらる

松鳴や百よむ中れ破子も

雪多し白衣よ涙不袖雪露玉
沾城

梅開ハ渠よ難役ーとまひ
沾洲

千鳥も暗また年と見る馬
沾洲

蕞小蛇の龜つくりたるてん
壺月

かゝ森かひもく非鳴も嘆
文東

使者屋よ木綿引裂物如月
只尺

沢原木黄くく緊巻と掃
沾十

系法人の
まま

うまひ
色より

沖くくくくくくくくくく
 立志
 子よ何れくくくくくく
 知
 以糖ふも碎くくくくく
 法竹
 錐の囊れくくくくく
 松巴
 庭およ福乃禱掛を物り
 商人
 驕くのけて我よわく
 浪岳
 鞭を絞ふるふ舟をけ
 寒池
 竹石
 利よ酔ふ五月に氣を封
 徳宇

まけこも
供ゆとの
くくく
沖おま
向りの

海流鴨柳
のり
りり
これ色

ひかま
せと
あ

山名よ梅ある山みちれく
 沾枝
 以饜菰のかけもむく
 依化
 何哉莖まの事一列
 朝叟
 か響るのりと教る
 露新
 比毛杉田に桶を掛
 沾山
 芝蓬葉に旋毛もい
 高嶽
 滴みくくくくく
 奴桑
 つきもなき絵刷毛
 海身
 結へ小袖こり
 徳純
 せ以後非ハ後人
 白雲

京河のり

大工次々よ免許札あり 湖舟

衣袋の字

比龍の内れ多きものより荒鮠 沾宇

まことよ

慈法乃帰ふ二藍れり 密面

足踏て

恵てろまつこと久と板れ夜 東の

巨舟に

葎毒の邪スエ山スエ一足占 晋如

冬月二や體菓子此すり拂スエ あ士

幾秋合点一ニラ四十寺 雨磧

借一金城より廣げぬり下り築 沼敷

浪人をくく元祖おてはめ 笑遊

旅篋ふくくスエ松乃跡とさ 倫里

と形と云ん

版立ぬ日ら暑さそんゆふ 磐谷

と魚をゆゆ

紅玖の森像もつりも新原磬 又魚

とみれいふ

新宿のらスエ後才又 甥 仙王

のみ 松まき

吾徳のり膏糸綱結さめり 序令

焙本スエのりスエを失ふ 可圭

納豆此糸スエ引スエ縹スエ 可水

忘てし御座

月を誇くスエ外乃吾風呂 佳風

のらありんし

病りりスエ坊スエふスエ女スエおスエ窓スエれスエ秋 子江

あまれ松スエ江列

酒スエのスエ横スエへスエくスエ不スエ春スエ法 沾節

風葉

三日 舟日りかゝる稚子列 和推
 道きも細く手拭温盤以 秋を
 瘡こゝもぬも玉粒女依の身 蓮之
 乳もや食ふも泣のも十二筋 半鱗
 只薬もまたあも中孝 沾漉
 寄る来る四本柱も諏訪上下 沾例
 鶴も声添る吹るはる 稻 漉宇
 物有懐ちるきても分る拵の流 沾枝
 之ッ杭た着る民乃 落月 垂月
 俾眼の肉もあはる輔にれく 柯木

中孝用藥
 礼記系義ニ出

稱しとるも
 中結つら知るぬをもつる念深 四十
 七府海 一く豆腐呼魚 沾宇

藝備庵
 作あり其
 ぬかとは
 圓の存中
 と云ふ
 覗く引く長屋に響る 藝倫菴 沾山

四句ノ文ノ多
 梵行品
 雪山のらんから怖い百合此口 文和

幸笑へ清不棟 上げ 倫聖
 陽中此態動もく笑ひ合 和推
 九人ちう水に絞る 禪 沾露
 気つら只板の前目へ廻 扶持 佳境

稱しとるも
 ありとの句

馬の毛白
髪
白連水戸白
學士檀栢

今山ノ白

清康熙帝
花の所ハ陽を
妃の所と云
ハ

栗小もあられ下よきを文
新の時智職やりに膝まを
潤ふもれも鬢かられ老
之取く身と凡連の種を撞
狸の付と里へ出不月
四ツ海へ蒸籠一荷然涌
内場と仁の居こる引菜
折ふ少き康熙もさぬとむ如
今も熱さめり井をきき水
名
仙里

信長ありとハ
くらじ子あ
らじ一カ紫

旅初る幕と

湯治
礼用貴和

換——く見えハ世々候ハ所
大切れ是も形す勢へ代袋
毒よあらぬと憶良等ら提
年れ矢乃引らきら崑崙人
俵ら方々く作らぬうそ
何と遊と坐えよ成川仕はき
蕎麦切多き新ぬの杉
幕代よ我ハ白ふくたひ也
和韻の唾硯ふもせよ
逆刺ハ是半日れ礼の用

風象
遠雨
毒殺
西磧
女士
晋如
半麟
松巴
椿子
叙梁

何の横川月何月如客
 御陣乃無事如約好生會
 苦竹吹もよ高如秋
 鶴舟とこいへ一鉢る麻頭巾
 君と富との中これ横着
 御交もなき園の下かきしむとこや
 環乃端ち丸茶年一箸
 吾家小もくつて付くる古妻は
 又二歩足せれ馬也行くき
 こころにち小廣波のむ乃隈
 夜装の美所の代くも如き
 御宇 賀燕 泣舟 蓮之 白雲 沾石 沾化 沾苔 序令 朝更 琴風

此の
 久々の
 なる
 月士

後竹谷子句負外二 五 摺立

此の竹谷の
 月を
 つら
 つら
 天の橋を 舟後
 此の井筒
 つら
 つら
 蘭亭記
 曲水の

系よいよや自然に立花見鳥
 水の井筒乃つらと解 沾徳
 料はりく蘭亭日知相よ 竹筧
 鼻馬も屯倉名は指あ打あひき 蓮之
 こころに月ち茶草敷 潔純
 風を吹乾の天工季よも 安士
 舞一二番関哉揮ハヒ 貞佐
 此神ハ振なきら産屋ハも 半鱗

鋤鱗

醸

水も汝利少く醸命之り 沾化

るるもく 罽根性 繪帷子 知足

罽

とるるもく 罽根性 繪帷子 知足

竹松垣何とえおし之氣をどと 沾岳

からどろふ川つ道も此長刀 椿子

はくくし我火文字よまを好 可圭

草のら草へ修夏此湯の祥 可添

つりくよあか

今も先施を此おまへら芋頭 西磧

盛親は所と

ここやうとせんとゆき牛一糸 法舟

ゆるよあくく之とる善此能き月 松巴

新持 色く

乃ら次口おく夏ハ身も世も 徳宇

乞詩 永爾

新持 謂不 兄やれと呼き春子花をらふ 沾山

後より糸引あらしらこなり 麦 鬱雨

は火とつ火地こつ色 ⑤ 賀燕

麻ぬくふそち色小縷よ言をあり 柯木

我屋を後形始出のぬ家 只尺

いやれらうと咲と連翹飽ころ 釵梁

津てたんびらあれ伊実越 隣笛

くらきく是れおま小鶏蹴合 沾石

新持 謂不 兄やれと呼き春子花をらふ

乞詩 永爾

乃ら次口おく夏ハ身も世も

徳宇

館を其勝之

輝、のせある宮殿ら館 翠鳳

何ふつけ玉星川のそそくや 壺月

蒼空同ても於まろりけ 白雲

竹のよの悟気ほろりと風仙毫 夏亭

月もゆるさぬ水桶れ鎰 沾枝

枝破の町屋
と月より

お灯篝ら麻えぬまはう也 赤水

秘事といつても汝参ても 仙王

徐福人よ
うまらり

いづれぞ知れ徐福の支度金 智谷

元日数寄れ鼻お多と指 千江

花聲れえそそき癒あやふ 立志

年業もろや柳蔭をよ 又白

ういハハノの小船さうへんむし 文東

吹玉吹乃る海か人 龜 晋如

云中小さごとくとりねど通る操者 湖舟

で川くも肥り露いけくところ 倫里

雷れ月よるるを打 囉子 風紫

ひちたの灘と肘く版押 序令

木香れま指よ白ふ市品色 佳風

気遠ひら又屋根がらら抜 秋色

花も右も引れ京番持 和推

ひらきれさ
ひきれ離之
一方まか

三 大魚の垂を下るの味は 海宇
 願ふ作如新此年およめ 浜洲
 無仗の家 兼實之 小刀鑿子無仗者 家 朝叟
 壁ととやい 壁とと八緞ぬるせむ村とや 沾徳
 耳へ油の落ふ行人 立志
 胸おこえきハ傍ハ菜と扣く 琴風
 羽織と肩へ算さうぬふ 蓮之
 衣—き名有と知らば額の裏 沾化
 仁夫盛るよごごと 紙屑 松巴
 此之い此はふおよふ心外指 徳純

顔ハく
 此の面
 顔ハく
 此の面

壁ととやい
 壁とと八緞ぬるせむ村とや

一 落配るも髪よ合ふ水 安士
 づり目も穢の穴より崩ゆ 渾字
 後蔭の音も只二更交 夏橋
 ありけれどもと際より音あり 沾岳
 坊の多情は焼糸小寄 知豆
 大海へゆらりけり大角力 只尺
 本場の乾きふこころ水垂 湖舟
 勘当れ天の下ハ笠立所 自依
 水の〜〜〜 呂宋人え 沾山
 ほらぬ袖出用テととと 漕 秋色

壁ととやい
 壁とと八緞ぬるせむ村とや

樂屋の夕人
徳代役おと
りふを

こころを
こころを

漆園先主 莊子

苦勞する本此 寄る来通 魯谷
 一セイと見えく小者起し 仙里
 竿如く柄も是物次乃家 可圭
 握るも涙し木物 緜靡香 青峩
 さても借り意れ違て 雨磧
 新の杖と醫者いふり 椿子
 門出れある 鄰 訃 巒雨
 花よ首吟物よ名 補 晉如
 一鞍小之人 眠不寅卯月 佳風
 沾枝

家久しくお
より新を
所々を合し

おかしおを
りこおを

女房小あて見り形彫 半鱗
 下機れ足小声向ふ片思ひ 义魚
 矣不執隣家遊小百斗 壺月
 猪の祖父れ禮の香小こす 白雲
 喧嘩の棒とくふ 軋 吟 風葉
 木枯れさりかたさ川白ひ 偏至
 笛て出あふれ今こく出あふれ 和推
 くらとれ未ら鬼門を怖からき 沾霞
 知ららんこら居 働や 文東
 天水も釜屋ハ釜ぞく秋の月 序令

小坊とが漕をなると川相 沾洲

接引え 菴裏食も訓きくハ葦井通室 賀菴

銀治の徳き 横濱の新よ下ふ徳利 柯木

十人よ入るはより三のり也 千江

系 餘こときハ借の日名里 叙梁

力五れき七カ
川一休出まま
さう女うりハ 入る末紫ちるは出立栄 法竹

無蓮 廊下掛
かきうの 書と
具名 係成 詮合
あり かつくつこくハ小料理も毛 海宇

くくゆえくうゆい 苗心無 莖 面橋

角 金ねり 仁志 瑞や 沾石

裁くと毛存へ押張る舟も舟 澁純

さよ在りとい
有らぬ有り まよ古いと 快くハ 宿次 朝叟

うよ有らぬ有り有らぬ有り 詩よ 魚詩とこれ
からいハ詞ハ三ハ 糸と心と通ハ 詩よ 熟と主とハ
上の上のハ一ハ 佛とつわてこれのハ 舟の上下する甲と著
方くとれ 佛の舟をささふるくうり 新舟ハ 舟名ハ
古きとをささるとれ 佛の中さす之をとおし 舟名ハ 舟名ハ
とれ此をささく己う 佛の古くうり 舟もめいしと 舟のりとい
わね 舟名もれとるあるハ 古くハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ
證とまきハ 新ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ
舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ
舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ
舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ 舟名ハ

方

享保六年

辛丑正月廿一日

神戶
徳林

吉田守白版

